

令和5年度 学生の意識啓発に関する調査研究事業 報告書

- 講座実施日 / 令和5年11月20日 (月)
- 対 象 / 九州龍谷短期大学 保育学科・人間コミュニティ学科 1年生
- 参 加 人 数 / 53名 (保育学科20名、人間コミュニティ学科33名)
- アンケート実施期間 / 事前アンケート：11月13日 (月)
事後アンケート：11月27日 (月)
- 回答者数
事前アンケート：42名 (対象人数：53名 回答率 79.2%)
事後アンケート：37名 (対象人数：53名 回答率 69.8%)

はじめに

アバンセでは、毎年、佐賀県内の各大学・短期大学と共催で「学生への意識啓発事業」を実施しています。

この事業では、大学、短期大学の学生の皆さんに、性別にとらわれずに自分らしく生きていくという学びを通じて、男女共同参画の意識を高めていただくために、キャリアデザインやワーク・ライフ・バランスなどをテーマにした講座を行っています。

また、講座の前後にアンケート調査を実施し、「学生の意識啓発に関する調査研究事業」として、講座に参加する前と後での学生の意識の変化に関する調査研究を実施しています。

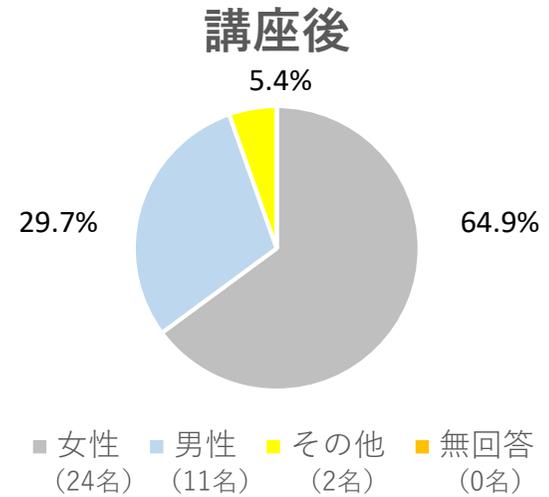
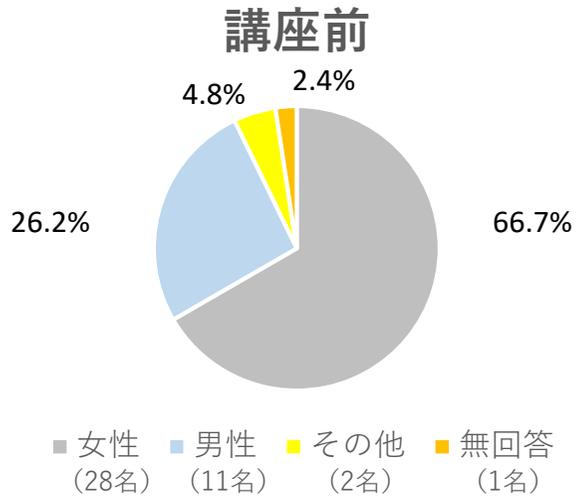
今年度は九州龍谷短期大学と共催し、保育学科、人間コミュニティ学科の1年生を対象に、「キャリアにおけるワーク・ライフ・バランスを考える」のテーマで講義とパネルトークを実施しました。

パネリストには、九州龍谷短期大学卒業生でダンス教室経営の秋吉奈穂さん、いまパパ、代表の片桐亮さん、佐賀県在宅生活サポートセンター副所長の中西美枝子さんの3名をお迎えし、株式会社アテンド代表取締役の福成有美さんに講師とパネルトークのファシリテーターを務めていただきました。

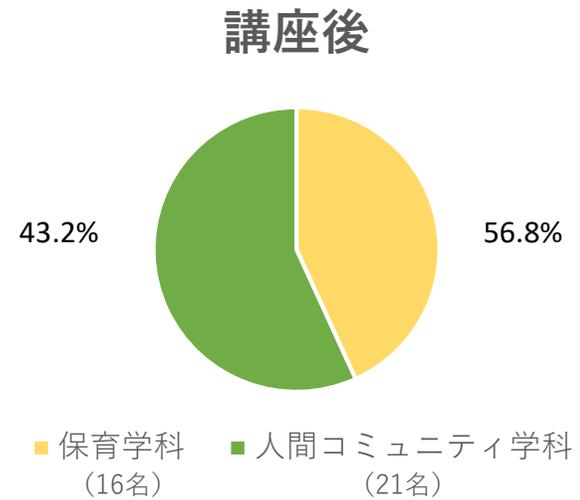
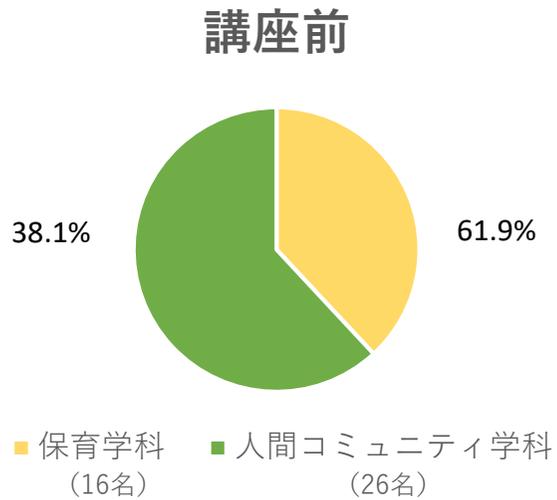
講義では、ワーク・ライフ・バランスの考え方や社会背景について学び、パネルトークでは、パネリストの進路選択や職業選択の動機から生きがいや人生の目的をお聞きし、育児や介護などの人生の変化にどのように向き合ったか、ワーク・ライフ・バランスをどのように実践しているか等についてお話しいただきました。また、パネルトークの最後には、学生からの様々な質問に答えていただきました。

講座の前後のアンケートを通して、九州龍谷短期大学の1年生が、「働く」ことについてどのように考えているのか、働く目的や働く際の地域選択、女性の働き方等についての意識の変化をまとめましたので報告します。

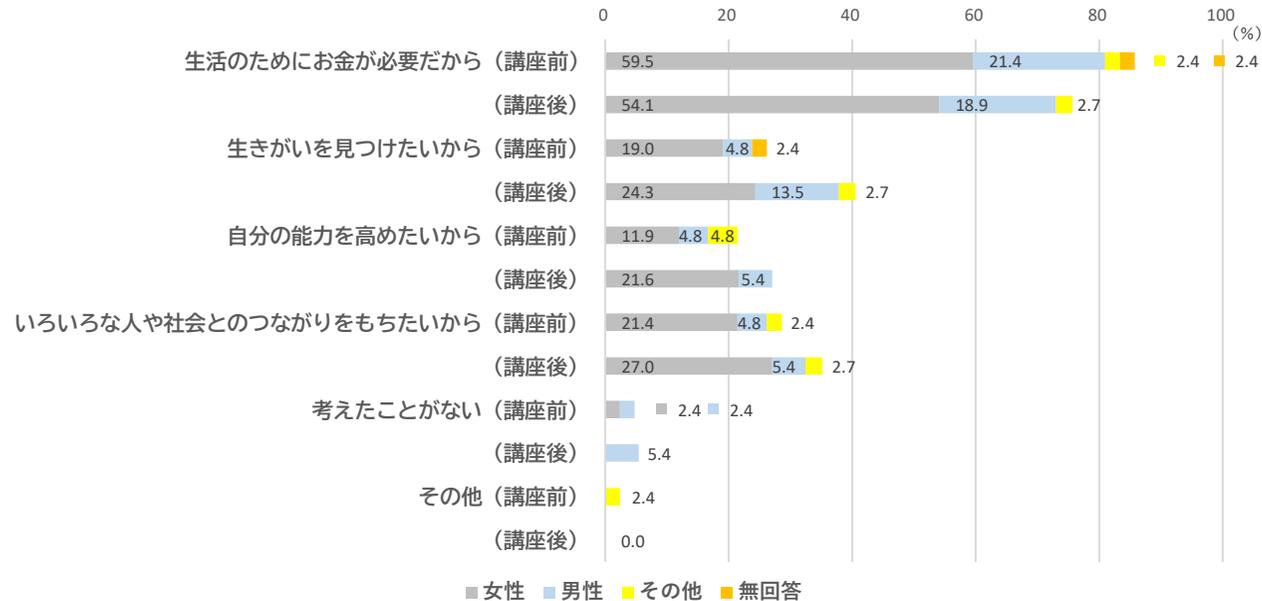
性別



学科



問1 働く目的について、どのように考えるか。(複数回答可)



～問1「その他」の回答～

【講座前アンケート】

・真の自分になるための道のり

【講座後アンケート】

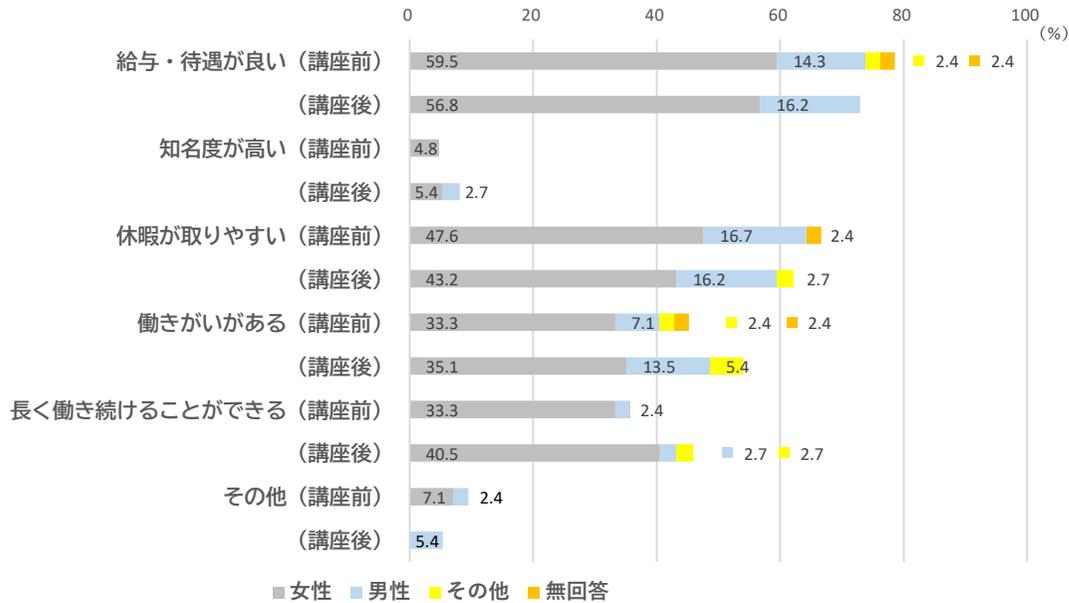
回答なし

〔傾向〕

「働く目的について、どのように考えるか」の回答では、講座の前後を通して「生活のためにお金が必要だから」が最も多い。

講座後の変化として、「生活のためにお金が必要だから」の回答が10%減少したのに対し、「生きがいを見つけないから」は約14%、「いろいろな人や社会とのつながりをもちたいから」は約7%、「自分の能力を高めたいから」は約6%増加している。

問2 就職先を選ぶ基準として、何を重視するか。(複数回答可)



～問2「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・人間関係、就職先の環境
- ・人間関係が良い
- ・人間関係
- ・考えたことがない（家業だから）

【講座後アンケート】

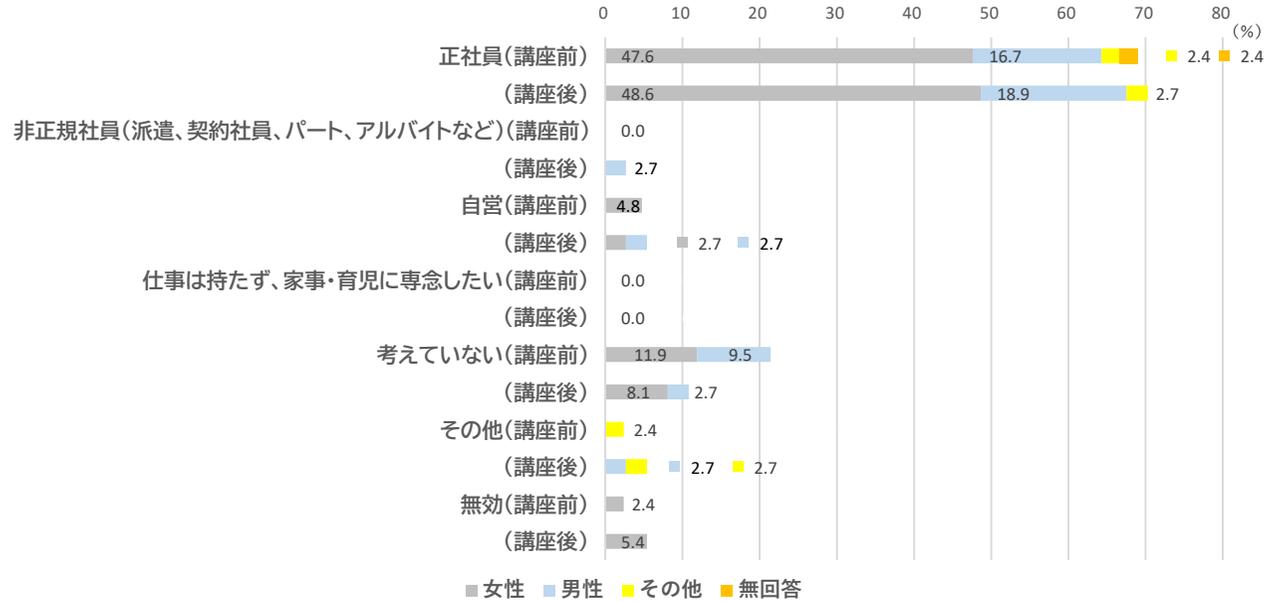
- ・家業
- ・そこから得られる学び、スキルがある

〔傾向〕

「就職先を選ぶ基準として、何を重視するか」の回答では、講座の前後を通して「給与・待遇が良い」が最も多く、「休暇が取りやすい」「働きがいがある」の順が続いている。

講座後の変化として、講座前に回答が多かった「給与・待遇が良い」「休暇が取りやすい」は減少し、「長く働き続けることができる」は約10%、「働きがいがある」は約9%増加している。

問3 働くときには、どのような形態を選ぶか。



～問3「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・自由に行動できる仕事

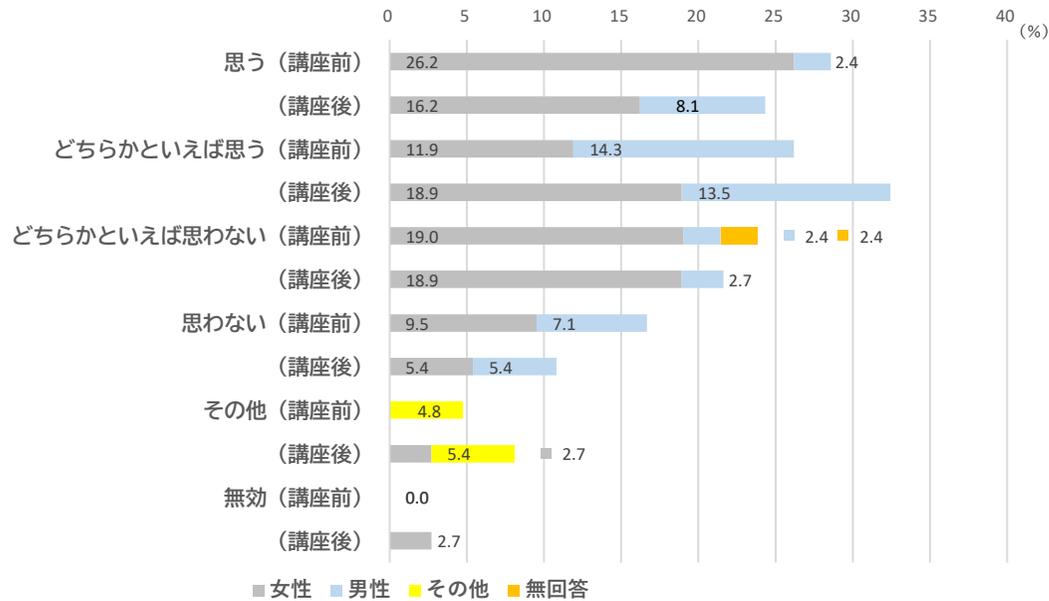
【講座後アンケート】

- ・スキルアップの転職を重ねたい、形態不問
- ・自立的自由な仕事

〔傾向〕

「働くときには、どのような形態を選ぶか」の回答では、講座の前後を通して「正社員」が最も多い。講座後の主な変化としては、「考えていない」が約11%減少している。

問4 佐賀県内で就職したいと思いますか。



～問4「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・長崎県内で就職
- ・日本内でどちらでもいい

【講座後アンケート】

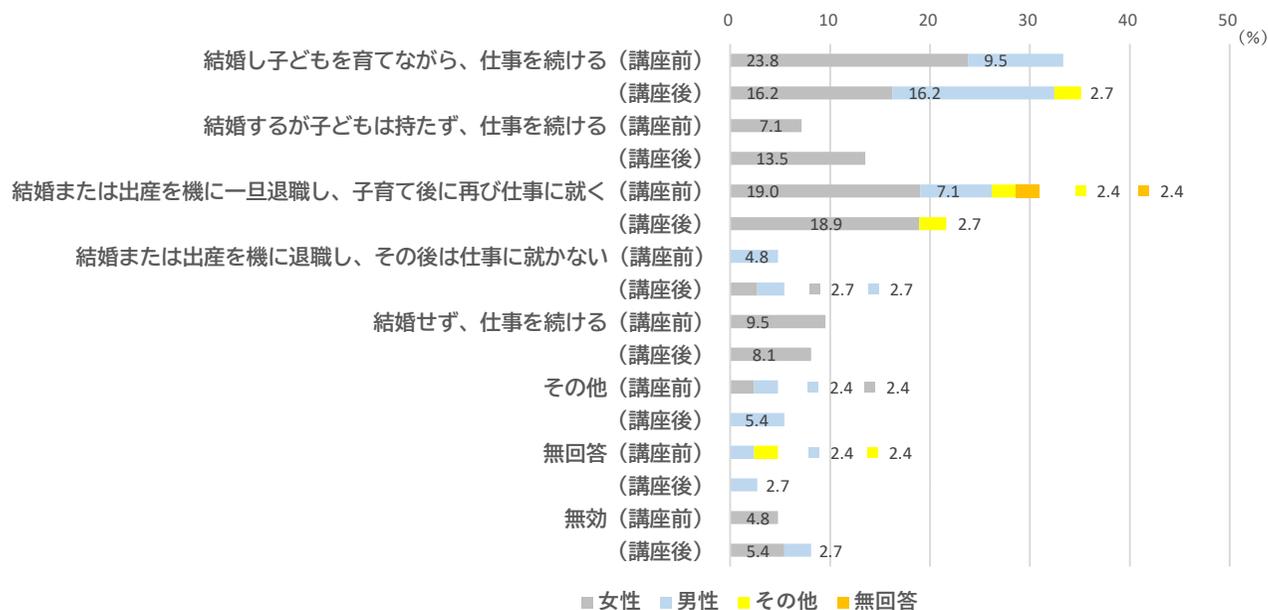
- ・福岡市内
- ・長崎県内
- ・どちらでもいい

〔傾向〕

「佐賀県内で就職したいと思いますか」の回答では、講座前は「思う」が最も多く、講座後は「どちらかといえば思う」が最も多い。

講座後の変化として、「どちらかといえば思う」が約6%増加し、「思わない」が約6%減少している。

問5 女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか。



～問5「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・自由
- ・分かん

【講座後アンケート】

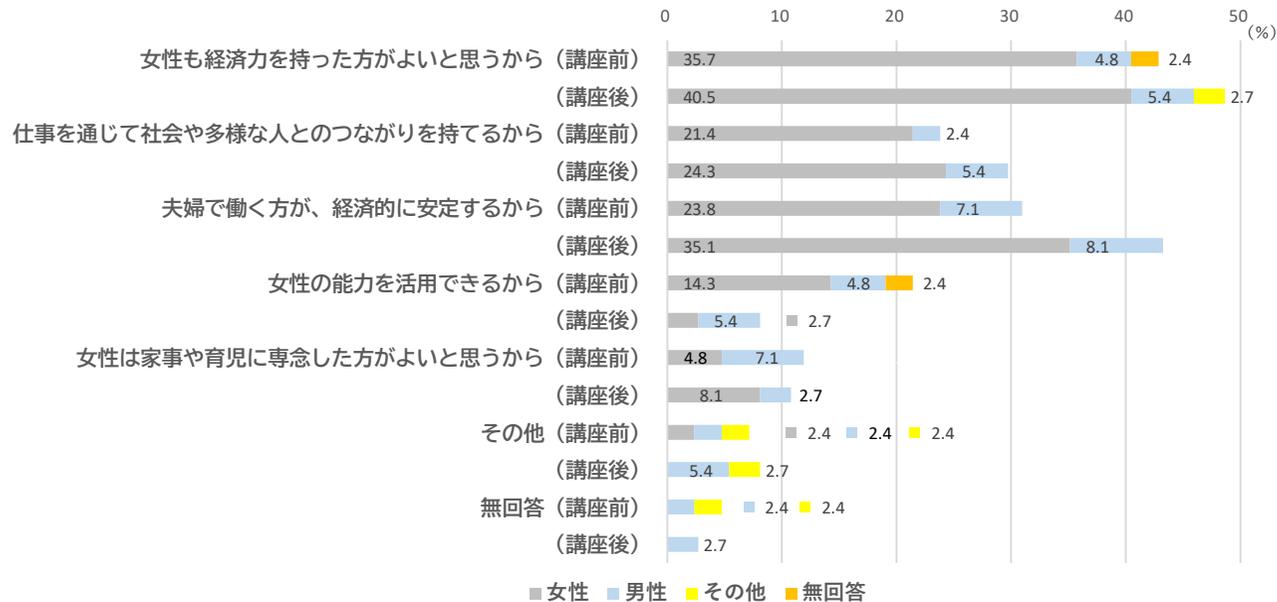
- ・すきなように生きればいい
- ・やりたいように

〔傾向〕

「女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか」の回答では、講座の前後を通して「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」が最も多く、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が続いている。

講座後の変化として、「結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける」が約6%増加しており、「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が約9%減少している。

問6 女性の働き方について、問5の回答のように考えるのはなぜか。(複数回答可)



～問6「その他」の回答～

【講座前アンケート】

- ・子どもを一人にしたいくないから
- ・子の命と本人の健康を優先するため

【講座後アンケート】

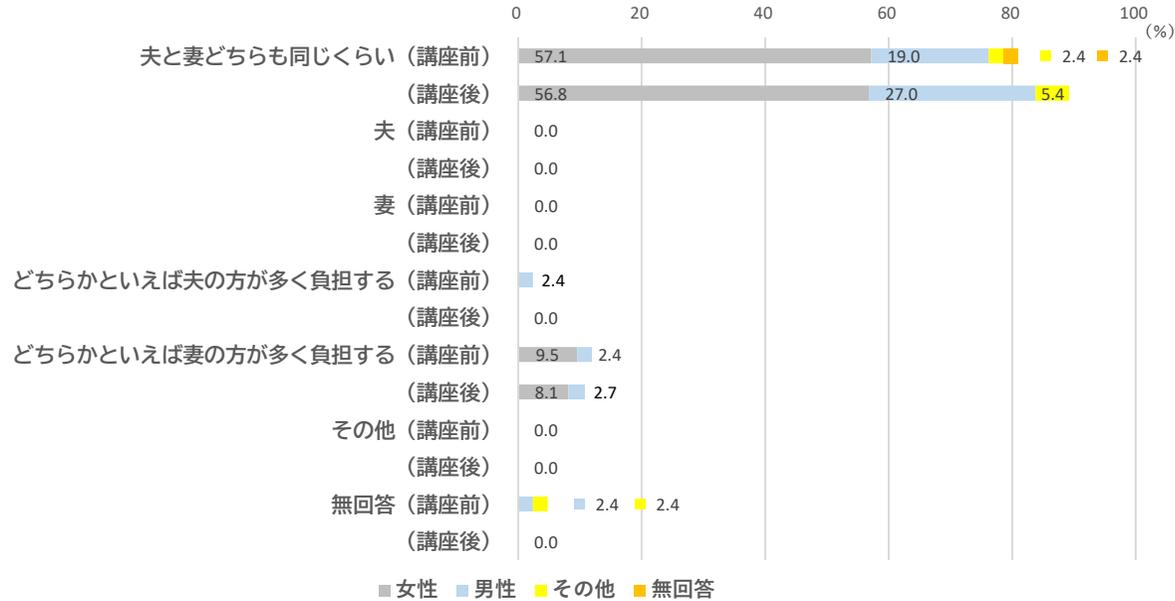
- ・自由が一番
- ・女性にも自由があるから
- ・夫婦で子育てに専念すべき

〔傾向〕

「女性の働き方について、問5のように考えるのはなぜか」の回答では、講座の前後を通して「女性も経済力を持った方がよいと思うから」が最も多く、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」の順に続いている。

講座後の変化として、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」が約12%増加している。また、「女性の能力を活用できるから」が約13%減少している。

問7 結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か。



～問7「その他」の回答～

【講座前アンケート】
回答なし

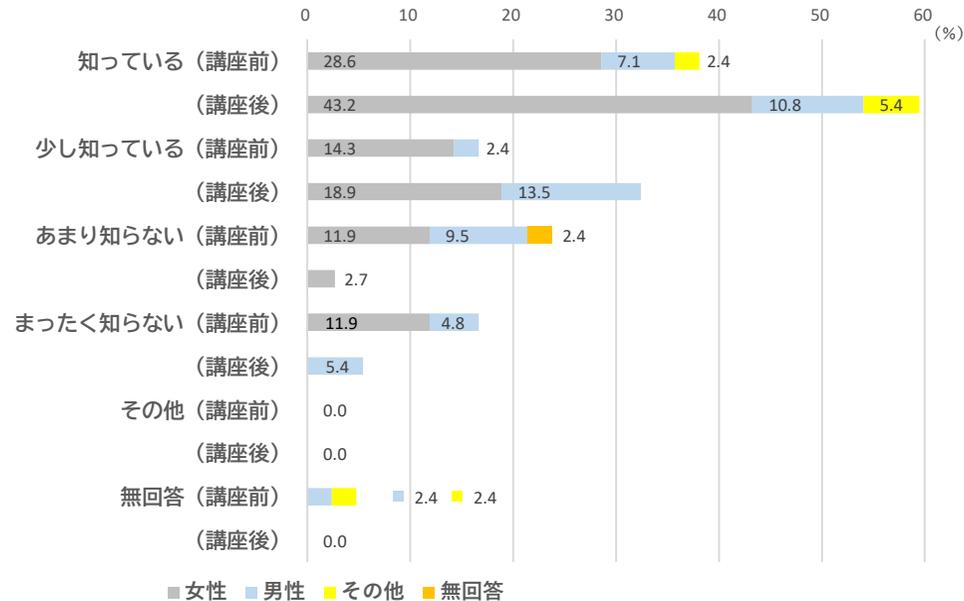
【講座後アンケート】
回答なし

〔傾向〕

「結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か」の回答では、講座の前後を通して「妻と夫どちらも同じくらい」が最も多い。

講座後の変化として、「妻と夫どちらも同じくらい」がさらに約8%増加している。また、講座前には男性のみが回答していた「どちらかといえば夫の方が多く負担する」は0%になっている。

問8 「ワーク・ライフ・バランス」について知っているか。



～問8「その他」の回答～

【講座前アンケート】
回答なし

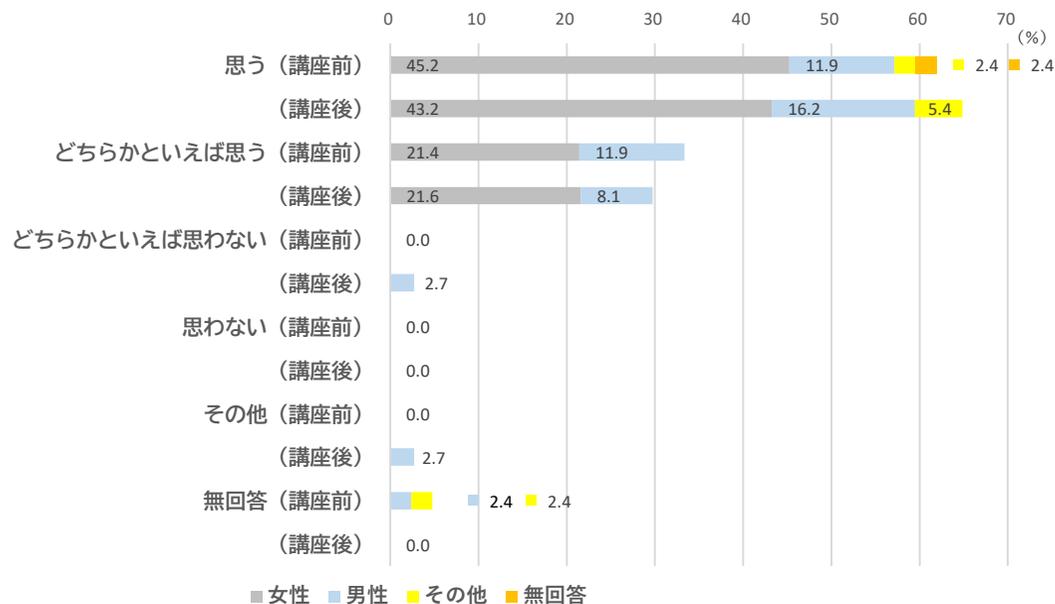
【講座後アンケート】
回答なし

〔傾向〕

「ワーク・ライフ・バランスについて知っているか」の回答では、講座の前後を通して「知っている」が最も多い。講座前には「あまり知らない」が2番目に多いが、講座後には「少し知っている」に入れ替わっている。

講座後の変化として、「知っている」が約21%、「少し知っている」は約16%増加した。それに伴い、「あまり知らない」は約21%、「まったく知らない」は約11%減少した。

問9 政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が增えた方が良いと思うか。



～問9「その他」の回答～

【講座前アンケート】
回答なし

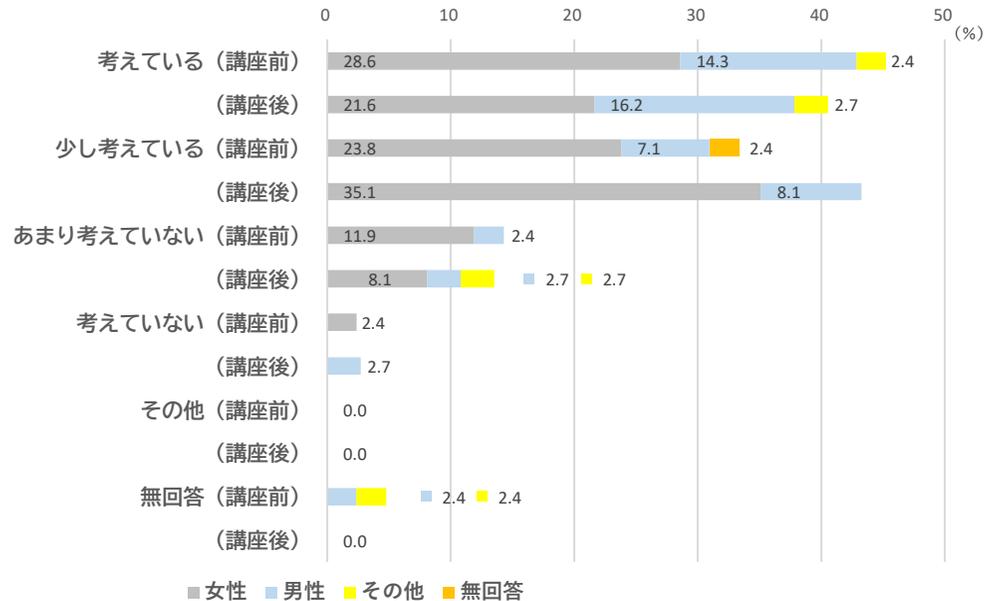
【講座後アンケート】
・思うが、そもそもやりたいと思う人は少ないと感じる。

〔傾向〕

「政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が增えた方が良いと思うか」の回答では、講座の前後を通して「思う」が6割を超えて最も多く、「どちらかといえば思う」が続いた。また、講座の前後を通して「思わない」の回答はゼロとなっている。

講座の前後で目立った変化はなかった。

問10 将来に向けて、今何をすべきか考えているか。



～問10「その他」の回答～

【講座前アンケート】
回答なし

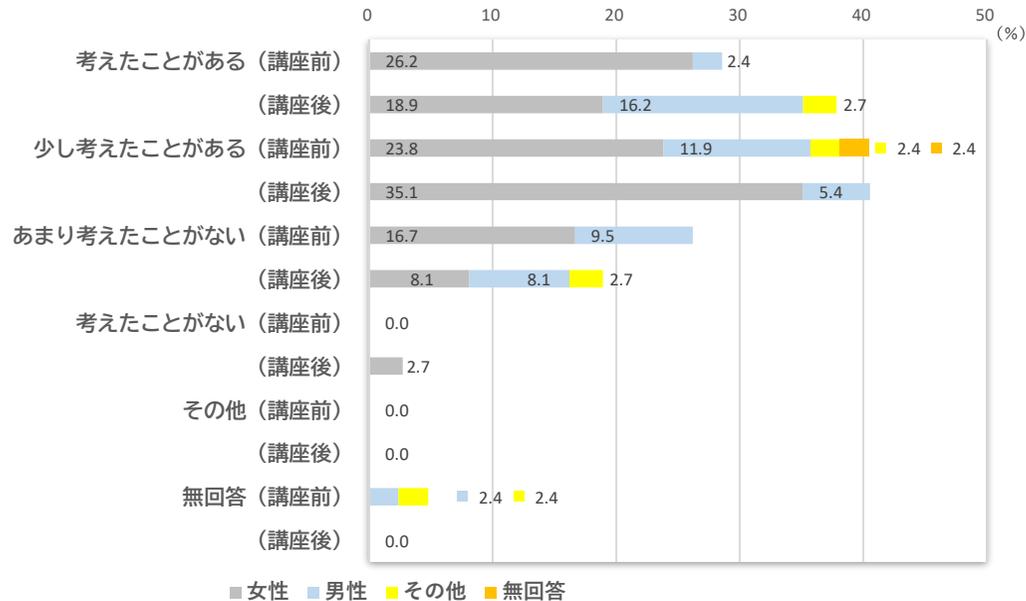
【講座後アンケート】
回答なし

〔傾向〕

「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の回答では、講座前には「考えている」が最も多く、講座後には「少し考えている」が最も多い。

講座後の変化として、「考えている」が約5%減少している。「無回答」も約5%減少して0%となっている。また、「少し考えている」が約10%増加している。

問 11 家族やパートナーの介護について考えたことがあるか。



～問 11 「その他」の回答～

【講座前アンケート】
回答なし

【講座後アンケート】
回答なし

〔傾向〕

「家族やパートナーの介護について考えたことがあるか」の回答では、講座の前後を通して「少し考えたことがある」が最も多く、「考えたことがある」「あまり考えたことがない」が続いている。

講座後の変化として、「考えたことがある」が約9%増加し、「あまり考えたことがない」は約7%減少している。

まとめ

今回、「学生への意識啓発事業」の講座の前後に実施したアンケートの結果から、九州龍谷短期大学 保育学科・人間コミュニティ学科 1年生の意識変化について、以下のとおり推察しました。

○働く目的について

問1「働く目的について、どのように考えるか」では、「生活のためにお金が必要」と答えた割合が最も高くなっています。これまでの調査と同じく、多くの学生が生計を立てるために働くという考えを持っていると考えられます。また、講座後には「生きがいを見つけたいから」への回答が増えています。これは、パネルトークの中で各パネリストの生きがいや人生の目的意識について触れたことで、自分自身についても考えを巡らせたことがうかがえます。

○就職先を選ぶ基準について

問2「就職先を選ぶ基準」では、講座の前後とも給与や待遇面が最も重視されています。また、講座後には「働きがいがある」「長く働き続けることができる」への回答が増えています。その内訳を見ると、「働きがいがある」は男性の増加が多く、「長く働くことができる」は女性の増加が多くなっています。これは、男性パネリストによる目的意識を持った職業選択・転職の話の影響や、冒頭の講義において『女性のL字カーブ（結婚・出産で退職し再就職した場合の正規雇用率の低さ）』『男性の育休取得について制度の整備が進んだこと』等を紹介した影響がうかがえます。

○働くときの形態について

問3「働くときには、どのような形態を選ぶか」では、講座の前後とも「正社員」と答えた割合が最も高くなっています。また、講座後には「考えていない」が減少し、それ以外の回答のほとんどが微増しています。これは、講座が自身の将来について考えるきっかけになったことがうかがえます。

○佐賀県内に就職することについて

問4「佐賀県内で就職したいと思うか」では、講座の前後とも「思う」「どちらかといえば思う」の県内志向の割合が5割以上と高くなっています。また、「思わない」「どちらかといえば思わない」という県外志向の割合は約40%から約32%へ減少しています。これは、各パネリストから住む場所に関わらず、生きがいや目的意識を持っていきいきと働く話を聞いた影響がうかがえます。

- ・ 県内志向の割合 (講座前) 54.8% (講座後) 56.7% ※「思う」「どちらかといえば思う」の合計
- ・ 県外志向の割合 (講座前) 40.4% (講座後) 32.4% ※「思わない」「どちらかといえば思わない」の合計

○女性の働き方に対する考え

問5「女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか」では、講座の前後を通して「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」の回答が3割程度と最も多くなりましたが、この内訳を見ると、講座後に女性が約8%減少し、男性が約7%増加しています。

講座後の変化としては、「結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける」が約6%増加しており、講座の前後を通して回答者は女性のみでした。また「結婚せず仕事を続ける」も講座の前後を通して回答者は女性のみでした。

「結婚または出産を機に一旦退職し、子育て後に再び仕事に就く」が約9%減少しており、この内訳を見ると、女性の割合はほとんど変化していませんが、講座後には男性が0%になっています。これらの変化から、講座後は女性・男性ともに『女性は結婚や出産の影響を受けることなく仕事を続けた方が良い』という考えが強まった可能性が考えられます。

○女性の働き方に対する考えの理由について

問6「女性の働き方について、問5のように考えるのはなぜか」では、「女性も経済力を持った方が良いと思うから」と「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」という経済面を重視した回答の割合が多く、講座後にはどちらも増加しています。これは、パネリストの話から経済面の現実的な重要性を感じ取ったことがうかがえます。また、講座後には「女性の能力を活用できるから」が減少しており、この内訳を見ると女性の回答率が約12%減少しています。これは、パネリストの話から、社会への還元を目的とした「能力の活用」という考え方より、本人がどのように働きたいかの方が重要だと感じ取った可能性が考えられます。

○夫婦の家事分担について

問7「結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か」では、講座の前後で「夫と妻どちらも同じくらい」と回答した割合が8割以上と大多数を占めています。この内訳を見ると、女性は講座の前後でほとんど変化していませんが、男性は講座後に8%増加しています。これは、パネルトークの中で男性の家事・育児への参画について触れたことで、男性の考え方に影響を与えたことがうかがえます。

○ワーク・ライフ・バランスの認知度について

問8「ワーク・ライフ・バランスについて知っているか」では、講座後に「知っている」「少し知っている」という肯定的な回答が大幅に増加し、「あまり知らない」「まったく知らない」という否定的な回答が大幅に減っています。これは、講座の中で男性の家事・育児への参画とそのため社会づくりが必要なことを学び、ワーク・ライフ・バランスへの理解が進んだことがうかがえます。

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|----------------------|
| ・肯定的な回答の割合 | (講座前) 54.8% | (講座後) 91.8% | ※「知っている」「少し知っている」の合計 |
| ・否定的な回答の割合 | (講座前) 40.5% | (講座後) 8.1% | ※「知らない」「あまり知らない」の合計 |

○女性の役職への登用について

問9「政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」では、講座の前後を通して「思う」と答えた割合が多く、「どちらかといえば思う」を含めると大多数が女性の役職が増えることに賛同していることがわかります。また、講座の前後で大きな変化はなく、女性の役職への登用について大学生の考えと、女性の役職への登用が進んでいない社会の現状に違いがあることがわかります。

○将来に向けての準備について

問10「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」では、講座前は「考えている」の割合が最も多く、講座後には「少し考えている」の割合が最も多くなりました。この内訳を見ると、男性の割合は講座の前後でほとんど変化していませんが、講座後に女性の回答は「考えている」が約7%減少し、「少し考えている」は約11%増加しています。これは、パネルトークの中で育児・介護という、現在も女性が担うことが多いテーマを取り扱ったため、女性の方が身近に感じて何らかの影響を受けている可能性が考えられます。

○家族やパートナーの介護について

問11「家族やパートナーの介護について考えたことがあるか」では、講座の前後を通して「少し考えたことがある」の割合が最も多く、「考えたことがある」「あまり考えたことがない」が続いています。この内訳を見ると、女性は講座後に「少し考えたことがある」が著しく増加し、「考えたことがある」と「あまり考えたことがない」が減少しています。また、男性は講座後に「考えている」が著しく増加し、「少し考えたことがある」「あまり考えたことがない」が減少しています。これは、パネルトークの中で語られた介護の経験に対して、女性と男性で受け止め方に違いがあった可能性が考えられます。

今回の講座は、冒頭の講義でワーク・ライフ・バランスの基本的な考え方を学び、続くパネルトークで3名のパネリストから「仕事」「育児」「介護」の3つのテーマについて、具体的で多様な経験、考え方と向き合い方を聞くことで、女性の就業や男性の家事参画の現実、子育てや介護と仕事の両立等について考える内容となりました。

それぞれのパネリストが生きがいと目的意識を持って人生を切り拓いた話は、ジェンダー意識やアンコンシャス・バイアスといった固定観念に捉われない生き方を考え、見出す機会になったのではないかと考えます。